

ICT導入による センサー評価について

マザアス南柏



【フロア紹介】

2024年9月 現在

▶ 入居者：32名（男性4名・女性28名）

▶ （内訳）

▶ 要介護1 5名

▶ 要介護2 3名

▶ 要介護3 6名

▶ 要介護4 6名

▶ 要介護5 7名

▶ 要支援1 1名

要支援2 4名

▶ 職員：23名



コニカミノルタ社の HitomeQ ケアサポート（ヒトメクケアサポート）導入

システム導入によるあるべき姿（目標）

■ 業務効率の向上

- ▶ ・ 無駄な行動をなくし職員の負担を削減
- ▶ （live機能を使用し不必要な訪室をなくす）
- ▶ （状況に応じた準備をして訪室ができる）
- ▶ ・ 隙間時間をご入居者との関わりに繋ぐ
- ▶ ・ 複数のセンサー機能を代替・集約する

▶ ■ 生活の質の向上

- ▶ ・ ご入居者の睡眠の質を上げる
- ▶ （センサーによる見守りを行って睡眠の質を上げる）
- ▶ ・ センサーによる抑制をなくし、生活の質を向上させる
- ▶ （live映像で見守りを行って必要なケアをおこなう）



【活動目標】

HitomeQケアサポートを導入し、
ご入居者の生活の質の向上をめざす。

センサーを使用する目的・根拠を職員全員が理解することによって、
ご入居者の身体状況や行動に応じた対応やきめ細やかなケアを目指し
生活の質を向上させる



今まで使用していたセンサーについて

施設で使用していたセンサーの種類

- ①マットセンサー
- ②離床センサー
- ③タッチセンサー
- ④サイドコール
- ⑤ドアコール

今までは数多くのセンサーをカンファレンスで、他部署の職員と評価をしてきましたが、評価基準があいまいで、見落としにより評価が遅れたり、評価がしにくい状況でした。また新人研修をする際、これらのひとりひとりの情報を把握するのに大変苦勞をしていました。



センサーを設置する目的とタイミング

- ① 歩行状態が悪い方
- ② コールが押すことができない方
- ③ 認知症の症状があり、歩き回る行動のある方
- ④ ケガや病気で体調が悪くなった方
- ⑤ 生活行動や覚醒状態の観察



現在施設で使用しているセンサーの種類

- ①起床（ベッド上での体動）
- ②離床（ベッドから離れた時）
- ③転倒（転倒した可能性があるとき）
- ④センサーマット
- ⑤ドアコール

今までのセンサーの場合、センサーを設置する形でしたが、HitomeQケアサポートの場合、すべてのご入居者の方をPC上でONにすることができます。ご利用者が立ち上がった瞬間や、その動作を感知し通知するため、転倒・転落を予防し適切なケアをするために使用します。



センサー評価一覧表

HitomeQ (ヒトメクセンサー) 評価表

2024.8.21

居室No	入居者名	定時巡回	ドアコール	起床	離床	転倒	居室センサ		身体状況	介助方法	転倒リスク	センサー対応方法	認知症介助	
							センサタイプ	ベッド高さ		移動介助	大(常に付き添い) 中(常に見守り) 小(ほぼなし)	BPSD行動	現状の対応方法	
311		4h		OFF	OFF	ON				杖歩行	小	live見守り	身体状況の不安	傾聴
313		1h		ON	ON	ON	無し	一番下	立位不安定・歩行不可	声掛け・誘導 居室内は臥床 車椅子居室入り口座面物置かない ※車椅子向き注意 起床時見守り	大	訪室	昼夜逆転・依存 不潔行為	傾聴・人を変える 時間を空ける
315		1h	◎	ON	ON	ON	ドアコール	立ちやすい 高さ	前傾強い・不眠時注意 首の90°傾き	自立・所在確認	大	環境・安全・歩行状態確認	徘徊・危険認識低下 こだわり 放尿 EV注意	精神状態に合わせる 攻撃・混乱されている 時は見守り
317		4h		OFF	OFF	ON	無し		自立・靴踵踏む	自立・所在確認	小	環境・安全確認	物盗られ	傾聴
320		4h		ON	ON	ON	無し	一番下	両目見えない	トイレ立位取れる軽介助	大	訪室	不安・焦燥・徘徊 排泄障害・車椅子 危険行為	傾聴
322		4h		ON	OFF	OFF	無し	一番下	両下肢動かない・肩の痛み	抱え車椅子移乗・両肩の痛みありフルタイプ対応中	中	転落の危険性あり・動きに注意し 状況に応じて訪室	コール頻回	傾聴
323		1h		OFF	OFF	OFF	無し	一番下	四肢拘縮	全介助・スライド移乗	小		歯ざしり・左腕が喉 元やCVIに上がりやすい	マウスピース
325		4h		OFF	ON	ON	無し	立ちやすい 高さ	コルセット(骨折予防) 車椅子自走・両胸乳がん手術(2024.1)	居室内自立・トイレブレーキ確認	中	環境・状態確認・立ち上がり注意	短期記憶低下	傾聴
326		1h		ON	ON	ON	センサマット	一番下	立位不安定・歩行不可 右鎖骨骨折	ひとり抱え移乗	大	訪室/スイングアーム閉じる	危険認識低下 脱衣行為	傾聴
330		1h		OFF	OFF	OFF	無し		胃婁・糖尿病・傷あざ注意	全介助・抱え(2名) 傷痍・骨折注意	小			

※一部抜粋資料



センサー評価について

【HitomeQケアサポート導入後】

カンファレンスにて

- ・リハビリ、看護、介護とそれぞれのチームから現在の身体状況や服薬の種類、生活のなかでのこだわりや多動な時間などの情報を持ち寄り、センサー表を使ってご入居者全員のセンサー評価を行っています



Live映像について

センサー評価に加え、HitomeQケアサポートの機能を活用し、より安全に生活していただけるよう、Live映像を活用しています。

Live映像とは、センサー反応後のご入居者の動きを動画映像で確認できる機能です。

例えば、起床センサー反応後、訪室がすぐにできない場合でも、安全に立ち上がっているかどうかを映像で確認できます。また必要であれば、声かけを端末を通して行うこともできます。

→ご入居者・ご家族にはHitomeQケアサポートの機能をご説明し、使用する許可をいただくために個人情報同意書に同意をしていただいています。

通知時のLiveの使用率は、推奨値の20%を大きく上回る状態を維持しており、活用できています。またケアコール時のLive使用率が高く、活用できている状況です。

Live機能を活用することにより、不要な訪室は抑制されている状況です。



【結果】 センサー評価表を活用して・・・

- ▶ ・今までは、ご入居者毎の介護計画書を確認したり、人に聞いたり、PCの記録を確認していましたが、一覧表にすることによって全ての方のセンサーの種類と目的と根拠、そして状態を一目で確認しやすくなった。
- ▶ ・毎月行うカンファレンスで行うセンサー評価では、ピックアップした利用者だけでなく、全てのご入居者の評価も見落としなく行うことができるようになった。
- ▶ 新人研修にも活用したり、他部署のリハビリ職員など、訪室や送迎を行う際もこの資料で大まかな状態とセンサーの種類がわかり、ドアコールのつけ忘れや注意点が確認しやすい。
- ▶ センサーの設定の目的と根拠を、すべての職員が知ることで、その方にあった観察ポイントを理解して関わることができるようになり、ライブ機能もうまく使え迅速で適切な対応ができるようになった。

【まとめ】

適切なセンサー設定を行って、入居者を抑制することなく、お互いのストレスを軽減し、これからも生活の質の向上と業務改善に取り組んでいきます。



ご清聴ありがとうございました

マザアス南柏

